巻　頭　言

「安全の追求」

執行役員　橋本 正一

安全という言葉は昨今新聞で見ない日はないほど社会で最も関心の高い価値のひとつです．「安全」をWikipediaで調べると「危険がないこと，被害（有形，無形を問わず）を受ける可能性のないこと」となっています．言わば「否定形の定義」であり，どういう状態を安全と判断するのか，その具体的なレベルは非常に曖昧なコンセプトであるとも言えます．食の安全，原子力の安全，国の安全など百家争鳴の原因もそこにあるのではと思います．弊社が直接的に携わっている自動車の安全も地域，国別にさまざまの法規で取り決められており，一部地域特有の要件も求められています．これは社会の歴史，成熟度，地域特有の交通環境により求められる「合理的な安全」が異なり，それが法規に反映されてきた結果と言えます．法規の国際統一の動きはあるもののその実現にはいくつもの課題が残され道半ばといったのが現状で，どの地域，国も最終ゴールである「交通事故の死傷者ゼロ」は同じでも現在の重点とその達成に向けてのスピード感は，整備されたインフラと成熟した交通環境の先進国とモータリーゼーションが急速に進む新興国で異なってくるのは当然ともいえるのではないでしょうか．この要求にタイムリーかつ的確にこたえ貢献できる実力と技術力がグローバルサプライヤーである弊社に求められていると考えます．

世界の交通事故死傷者は年間130万人を超えるといわれています．欧米，日本などの先進国市場での死傷者は合わせても約8万人であり，新興国がそのほとんどを占めており，対策のスピードアップが求められています．新興国ではインフラ整備と国民の教育，安全意識の向上などを進めるとともに，自動車メーカー，サプライヤーは業界を挙げてエンドユーザーが賄えるコストで現在の先進国の車に標準装備されている「基本的な安全装備」をすべての車に搭載することが当面の課題であります．「基本的な安全装備」の実現は新興国でも始まった安全性能のアセスメントで今後急速に加速されると期待されています．一方，先進国は自動車の衝突安全性能の向上により過去20年で着実に死傷者低減の成果を上げてきたものの，歩行者，高齢者，子供といった交通弱者の死傷者低減が課題となってきています．その対策として事故そのものを回避する，もしくは被害を軽減する技術として予防安全に注目が集まってきました．予防安全を現状課題の唯一の打開策として期待するのでなく，衝突安全の一層の向上と合わせた「死傷者ゼロ」に向けた新たな取り組みが始まっていると考えています．

これまで安全は社会の進化とともに求められるレベルが上がり，その範囲も拡大し，その対応に向けた取り組みが始まり展開されるといったサイクルが繰り返されてきました．今後は我々が社会の要求に先駆け安全を追求し，お客様に安心を提供できるサイクルを実現していきたいと思います．

今回，安全の特集にあたり，獨協医科大学の一杉正仁先生に特別寄稿をお願いしました．ご一読いただき，安全の追求には自動車のハードだけでなく，人，環境を含めたソフトが重要であることを改めて学びましょう．